



市ホームページ「市長の部屋」へどうぞ。http://www.city.shimonoseki.lg.jp/



長州出島に入港した自動車運搬船と船積みされる自動車(2014年4月17日)

馬関港開港150周年 未来に飛躍する下関港



んにちは。市長の中尾友昭です。下関市が昔「馬関」と呼ばれていたことはご存じですか？ 下関市の旧地名である「赤間関」の「赤間」の間の字に馬の字を充て、「赤馬関」から「馬関」に変化したものと言われています。

下関が馬関と呼ばれていた150年前の1864年、関門海峡では、長州藩と四国艦隊「英・仏・オランダ・米」の間で「下関馬関戦争」が勃発。この戦いに惨敗した長州藩は、高杉晋作を講和の使者として、談判に臨み、長州藩が下関海峡の外国船の通航の自由や悪天候時の船員の下関上陸の許可などの条件を受け入れ、馬関港は実質的な開港を迎えます。その後、1899年に関税法による貿易港の指定を受け、下関港は、国際港として発展を迎えることとなります。

現在、下関港は、韓国と中国の間に週11便のフェリー航路を有する日本最大のフェリー基地として、毎日、多くの人や物が往来する国際港湾都市となりました。

この下関港をより多くの方に利用していただくため、さる7月14日、今年、友好都市の盟約を締結して35周年を迎える中国・青島市で「下関ポートセミナー」を開催し、「海よりも早く、空よりも安い」下関港の特徴をPRさせていただきました。

下関港は、これまで日本とアジア大陸を結ぶ港として発展してきました。より一層の飛躍のために、市内垢田沖約62畝を埋め立てて整備している「長州出島」は、今後、新たな航路や産業を誘致するため重要なものとして、大きな期待が持たれています。

関

門海峡は、1日数百隻の船舶が往来する国際航路であり、観光交流都市・下関の代表的な観光スポットでもあります。関門海峡に面したあるかぼーと地区には、馬関港開港150周年記念事業として今年さまざまに船が入港しています。その一環として、7月31日から8月5日までの間、「日本丸」と「海王丸」の2隻の帆船が同時寄港し、セイルドリルや一般公開、登壇礼を行います。10月には豪華客船「ばしふいっくびいなす」、11月には国内最大の豪華客船「飛鳥II」が寄港する予定です(14頁参照)。市を挙げて下関らしい「おもてなし」でお迎えます。この機会に港町・下関を体感してください。

中尾市長の似顔絵を募集しています。作品と、住所、氏名(ペンネーム可)、電話番号を、広報広聴課 〒750-8521 市内南部町1番1号)へお寄せください。

しものせきナビ vol.47

下関の登録有形文化財

護國寺

「本堂、清正公堂、納骨堂、門柱」

下関市上田中町2丁目11番10号



市街の山裾にある護國寺は、明治初期に玉屋利兵衛が現在地に草庵を建立したことに始まる日蓮宗の寺院です。昭和4(1929)年建築の本堂をはじめ、境内には4件の登録有形文化財が並んでいます。大きな入母屋造の屋根と正面玄関の唐破風庇が特徴の本堂は、庇を支える鉄製送りや正面のガラス戸の意匠に昭和初期の雰囲気を感じられます。

本堂南の清正公堂は、内部に戦国武将・加藤清正の木像を安置する明治30(1897)年の建

納骨堂(左)と清正公堂
左写真は門柱と本堂



築です。外部は日本の伝統的な形式である和様でまとめられ、内部の須弥壇廻りは、禅宗様を取り入れられています。

この2件に加え、明治39(1906)年の銘が刻まれた石造門柱と大正10(1921)年に造られた鉄筋コンクリート造の納骨堂が、歴史的景観を構成しています。

本堂と清正公堂は、それぞれ建築時の棟梁が判明しています。図面や棟札などの資料から、建物に関わった人が浮かび上がってくるのも近代建築の特徴の一つです。

※登録有形文化財…地域のシンボルとなっている建物など、特にその保存と活用が必要とされる身近な歴史的建造物のうち、文部科学大臣が文化財登録原簿に登録した建築物や土木構造物などのこと